

8/31 第31回 印刷労連 年次大会 開催!!

～産業政策の実現に向けた一步を運動の推進力に!～

2024年8月31日(土)、第31回年次大会は台風10号の接近に伴い、会場での開催から急遽完全オンライン開催に切り替え開催されました。運動方針、予算など含めた全ての議事が確認されましたことをご報告致します。

◆印刷労連 第31回年次大会 式次第

1. 開会挨拶
2. 資格審査委員および議事運営委員選出
3. 資格審査委員会報告
4. 大会成立宣言
5. 議長団選出
6. 大会書記長選出
7. 大会書記任命
8. 中央執行委員長挨拶
9. 連合芳野会長ビデオメッセージ
10. 祝電・メッセージ披露
11. 議事運営委員会報告
12. 報告事項
 - ①2023年度本部活動報告
 - ②2023年度決算報告
 - ③2023年度会計監査報告
13. 議事

第1号議案:2024年度運動方針(案)に関する件
 第2号議案:2023年度繰越金処分(案)に関する件
 第3号議案:2024年度予算(案)に関する件
 第4号議案:2024年度補充役員選出に関する件
 第5号議案:2024年度中央委員の変更に関する件
 第6号議案:印刷労連規約一部改定(案)に関する件
14. 大会宣言(案)
15. 閉会挨拶



議長 安達代議員
 <凸版印刷労組>

議長 小林代議員
 <共同印刷労組>



連合 芳野会長よりビデオメッセージ



祝電披露
 大浦大会書記長
 <コクヨ労組>



議事運営委員会報告
 竹熊議事運営委員長
 <リーブルテック労組>



会計監査報告
 島田監査
 <高桑美術印刷労組>

佐藤中央執行委員長挨拶

本日は、会場へ参集を頂く形で年次大会を開催する予定でしたが、特別警報が発表されている台風10号の上陸に伴い、皆様の安全確保を最優先に考えて急遽ではあります完全オンラインに切り替えた形での開催と致しました。

災害ということでは、「令和6年能登半島地震」が本年元日に発生しました。大変多くの犠牲者と避難者が出ております。改めてご冥福をお祈りするとともに、一日も早い復旧、復興を願いたいと思います。支援としては、緊急カンパ、青年委員会による中央メーデーでの支援に向けた出店、被災地支援ボランティアへの派遣など、各構成組織のご理解とご協力に対しまして、心から感謝を申し上げます。今後も、労働組合の基本理念である、助け合い、支え合いを大切に、皆様とともに相互扶助の取り組みを進めて参ります。

本日は、2023年度を振り返り、その成果と課題を基に、更に労働運動を前進させていく「2024年度運動方針」を審議いただく大会となります。

前年度の振り返りとして、春闘は連合集計では「定昇相当込み賃上げ」は、加重平均で15,281円、率で5.10%、うち中小組合は11,358円、率で4.45%と、最終集計まで5%超えを維持したのは33年ぶりとなりました。また、賃上げ分(ベースアップ)が最終集計で3%を上回ったのは、賃上げ分の集計を開始した2015闘争以降初めてと、各構成産別、組織の奮闘が結実した春闘であったと評価できます。印刷労連も同様に、賃上げでは加重平均で13,679円、率で3.48%と、額、率において前年同期比を大幅に上回る、11年連続の賃上げが実現出来ました。本部として、各構成組織のご奮闘に心からの敬意を表します。しかし、内訳を見れば、全ての構成組織が回答を引き出せているわけではありません。産別としては重要な課題と認識し、2025春闘に向けて検討を進めます。今春闘は、大きな成果を得ましたが日々の生活に目を向ければ、物価高に対して消費を控える傾向は続いています。経済の好循環、働く一人ひとりの経済的豊かさを実現するためには、やはり継続的な賃上げが必要です。その意味では、これからが労働組合にとって、本当の正念場となる賃上げ交渉のスタートとなります。引き続き印刷労連の構成組織全てが一致協力し、総体で2025春闘に向けて頑張りましょう。

続いて、印刷労連の産業政策ですが、この間の取り組みを継承するとともに、産業政策を通じてより魅力ある印刷産業とすべく、企業団体、他産別との連携を強化してきました。業界団体としては、日印産連に加えて、印刷工業会とも連携を取るべく調整を進めております。ご承知の通り、印刷業界は既存のペーパーメディアの縮小とともに、市場環境は厳しさが増しております。この環境の改善、企業の成長と働く組合員の雇用確保、そして生活の安心を実現するためには、産業政策を通じた国政や行政からの支援が必要となります。適正取引の調査で

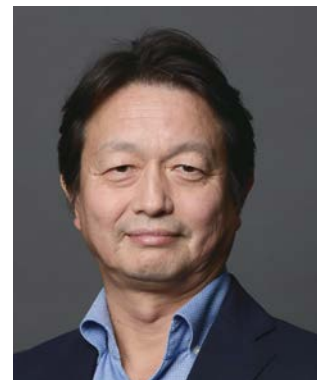
は、印刷業界は評価が低い位置にあります。その様な点をはじめ今後も取り組んでいかなければなりません。私たちの生活は法律によって調和が維持されています。その点からも、各構成組織には、日々の仕事や生活を通じて感じる法律への矛盾などあれば、是非、声をいただきたいと思えます。

印刷労連として支援している電力総連出身の浜野よしふみ、竹詰ひとし参議院議員は、印刷労連が毎年提出している産業政策に関する要望書を基に、印刷労連との情報交換を通じて、様々な検討をいただいております。本年は、6月に開催の参議院環境委員会において、浜野議員から印刷産業における課題提起をしていただきました。これからも各構成組織と対話を続け、印刷産業の課題を明確にし、産業政策の提言にまとめ、国政で取り上げて頂けるように取り組む必要があると考えます。また、浜野よしふみ議員は、来年の7月をもって任期満了となります。印刷労連としても7月の中央委員会で推薦決定しております。引き続き、皆様からのご支援を賜りたくお願い申し上げます。

最後になりますが、先日資料を整理した際に機関紙「連合(2022年1・2月号:No.393)」で特集しておりました新春座談会の記事に良い事例がありましたので、その内容について紹介させていただきます。テーマは「労働組合による未来づくり」でした。参加者は、芳野会長はじめ、連合本部の方々です。その中で、改めて「労働組合の役割」について再認識させられました。芳野会長が単組の執行部時代時に手掛けたこととして、組合員からの相談で「制服のリボンとベルトが直ぐに傷んで困る」ということがあったそうです。そちらについて直ぐに取り組み、組合員に喜んでいただけたこと、その後に組合を応援してくれたというエピソードがありました。また、松浦会長代行は、処遇制度における学歴主義的要素が強く、工場勤務と営業職で格差があることに疑問を感じ、7年かけて学歴格差を縮小してきたエピソードでした。内容は違えども、働く人の悩みや疑問を少しでも解消し、会社で働くことが楽しい、もっと頑張ろうと思える職場環境づくりを、働く組合員に寄り添い同じ目線で取り組むことに、労働組合の存在意義と役割があるということです。

労働運動の原点は職場であり、労働組合の存在意義は職場内での小さな改善の積み重ねです。

本日、提案する運動方針についても、その様な視点を含めて審議いただければと思います。本日はよろしく申し上げます。



佐藤中央執行委員長

年次大会 各報告者、大会宣言(案)



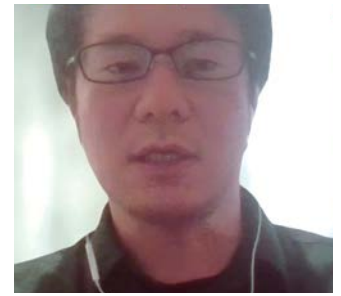
2024年度運動方針(案)他
大窄中央書記長



2023年度繰越金処分(案)
2024年度予算(案)
鈴木財政部長
〈トッパン・フォームズフレンドシップユニオン〉



2024年度補充役員選出に関する件
種子田選挙管理委員長
〈リーブルテック労組〉



大会宣言(案)
杉山副中央執行委員長
〈ココヨ労組〉



オンライン出席された役員

大会宣言(案)

本日、私たちは「産業政策の実現に向けた一步を運動の推進力に!」のスローガンを掲げ、第31回年次大会を開催し、2024年度の運動方針を採択した。今、私たちを取り巻いている状況は、2023年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが変更されて以降、日本経済の好循環をより円滑に生み出すため、政府をはじめ企業、団体、組織などが一丸となって取り組みを進めている。一方で、ウクライナ侵攻の長期化、中東をめぐる情勢不安により、世界全体の平和に対する不安を募らせている。また、私たち生活者にとっては、エネルギー費や原材料費の上昇により、消費者物価指数の上昇などから、経済において今もなお不安定な情勢にあると言える。

労働界においては、日本国内をはじめ世界で起きている状況に注視しながら2024年春季生活闘争に取り組んできた。結果、現在の日本経済や企業業績の動向を見極めながら、私たちがこだわり続ける主張を展開し一定の成果を獲得した。引き続き、この流れを継続的に、また、さらに上昇させながら取り組みを継承していかなければならない。これらの結果を十分に受け止め、2024年度運動方針の具現化に向け、引き続き職場や地域に根差した労働運動と日々の組合活動を着実な歩みとして展開する。一方で、2025年は第27回参議院議員選挙の年である。7月26日に開催した2024年度第1回中央委員会において、電力総連出身で参議院議員現職の浜野よしふみ氏の推薦を全体で確認した。印刷産業をより充実させるためには、私たち労働者観点の意見を国政へ届け、様々な諸制度や法の整備を進めるきっかけを作っていかなければならない。そして、印刷産業だけではなく他産業へも派生させ、労働界全体で働きやすい環境整備を創りだしていくことが必要である。こうした状況のもと、2024年度の新たな運動方針は、2023年度運動方針を継承しながら、さらに取り組みを進め、より向上させていくため、すべての構成組織が参画できる活動を展開していく。そして、本日採択された運動方針を、全組合員の英知と総力を発揮して全力で取り組むことをここに宣言する。

2024年8月31日
印刷情報メディア産業労働組合連合会
第31回年次大会

平和行動 in 沖縄

2024年6月23～25日、平和行動in沖縄に印刷労連から10名が参加しました。23日は「聯合平和オキナワ集会」にて、基地問題や日米地位協定の問題について学ぶことができました。日米地位協定については、沖縄で暮らす人たちの安心のため、改定の必要を強く感じました。24日は連合沖縄主催の「ピースフィールドワーク」に参加し、建設中の辺野古基地、嘉手納基地、チビチリガマなどを視察しました。過去の平和行動では建設予定地だった辺野古に、基地の建設が進んでいることを目の当たりにしました。25日は自由行動でしたが、那覇空港近辺で凄まじい爆音で飛行する戦闘機を間近に見る機会があり、沖縄の抱える問題を実感することができました。

今回の平和行動で私が感じたことは、沖縄の平和問題は、過去のことでなく、現在進行形であるということです。沖縄には日本における米軍基地の約7割が集中し、騒音問題や日米地位協定による不条理に沖縄の人たちは日々苦しんでいます。また、普天間基地の辺野古移設の問題では、間近で視察した辺野古の海の自然破壊に加え、立場の違いによる住民の分断も招いていることを知ることができました。普天間の問題と辺野古の建設をトレードオフで語る政府の姿勢には疑問を感じます。私としてもこれらの問題を構成組織で働く仲間の皆さんに伝えることや、連合・印刷労連・単組での平和行動実施でリーダーシップを果たし、問題の周知や解決に、微力ながら貢献していきたいと思っています。

報告者 副中央執行委員長 杉山 拓視



平和行動 in 広島

2024年8月5～7日、平和行動in広島に印刷労連から14名が参加しました。初日正午過ぎに早速「ピース・ウォーク」へ。1時間半にわたり、平和記念公園内の各所を連合広島およびPATの皆様丁寧に説明いただきました。私は広島にはプライベートで行ったことはありましたが、「平和祈念資料館」と「原爆ドーム」くらいしか見ていませんでした。平和記念公園には、多くの碑やそれを祀っている場所が数多くあり、説明を聞いて、「広島に行ったことがある」と言っていた自分が恥ずかしくなりました。平和記念公園は様々な思いや記憶が詰まった場所であり、本当の意味で貴重な体験をし、平和行動の意味を深く理解することができました。

「ピース・ウォーク」の後は「連合2024平和ヒロシマ集会」です。各団体代表の方々からは、平和に対する強い意志が込められた心に響くものでした。そして、被爆体験による語り部の方の講話は、胸が締め付けられました。集会の終盤には高校生によるメッセージがあり、『微力だけど、無力じゃない!!』この言葉は私の胸に深く突き刺さり、「若者たちも平和を真剣に考えているんだ」と、大人である私は深く考えさせられました。

2日目早朝、再び平和記念公園に向かいます。原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式は、私たちはメイン会場に入ることはありませんでしたが、モニターを見ながら、静まり返った激しく蝉の鳴き声だけが響き渡る中で、心の底から平和を祈りました。

その後、場所を移動し、「ワークショップ～平和について考える～」を実施し、「平和とは何か」「平和のためにできること」「今回の研修で学んだこと」を参加者全員に発表してもらい、それぞれに考える平和への想いを伺うことができました。最後に、高校生が発信した『微力だけど、無力じゃない!!』この想いを胸に、今後の活動にいかしていきたいと思っています。

報告者 副中央執行委員長 勝又 紀智



広島・長崎、9月には根室で開催されました。参加者を代表して各団長よりご報告致します。

平和行動 in 長崎

出発前日に関東を襲った激しい雷雨で羽田空港の発着便の乱れから1名が大幅に遅れての到着というハプニングがある中で14名が連合「平和行動in長崎」に参加しました。

1日目は、「連合2024平和ナガサキ集会」に参加しました。被爆者の訴えとして、(公財)長崎平和推進協会継承部会の築城昭平さんから夜勤終わりの就寝時に被爆した生々しい体験をお聞きし、一瞬にしての悲惨な出来事に言葉を失いました。また、語り部からナガサキ・ユース大使や高校生平和大使の若者へ引き継がれていくであろう姿に感銘を受け頼もしさを感じました。

2日目は、「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」を長崎原爆資料館で中継視察、「ピースウォーク」参加、さらに「万灯流し」に訪れました。合間にはワークショップ「平和について考える」において参加者一人ひとりの想いを語り合いました。

国際紛争に核兵器の影が見え隠れする時代の中で多くの人が長崎・広島を訪れ、平和の尊さを考えて貰いたいと思います。

報告者 副中央執行委員長 水落 圭吾



平和行動 in 根室

例年にはない暑く快晴の根室。その地に私たち印刷労連12名は連合の平和行動in根室の行動に参加しました。

行動1日目は、北方領土問題をさらに知るため、連合が開催した学習会に参加し、元択捉島島民の鈴木咲子さん、元歯舞群島・志発島島民で北方領土返還要求運動連絡協議会事務局長である児玉泰子さんのお2人より、ふるさとに対する想いを拝聴しました。来年で訴え80年が経とうとしている現在において、元島民の方々も高齢になり、時間だけが過ぎていくジレンマなど熱く胸を突くような内容に、引き続きこの訴えを継続していかなければならないと痛感しました。

行動2日目は連合2024平和行動ノサップ集会に参加し、北方領土返還を要求する訴えやピースフラッグリレーなど、連合として北方四島に対する返還の想いを全体で確認しました。

北方領土返還は戦後の大きな問題のひとつです。一刻も早く返還が実現し、私たちの領土として平和な日本が訪れることを切に願います。

報告者 中央書記長 大窪 新二



第1回 中央委員会 開催!!

◆日時 2024年7月26日(金) 13:30~15:45
◆会場 TKPガーデンシティPREMIUM品川高輪口

◆中央委員会 式次第

議事

- (1) 2024春季生活闘争のまとめ(案)
- (2) 2023年度繰越金処分(案)
- (3) 2024年度運動方針(案)
- (4) 2024年度予算(案)
- (5) 2024年度補充役員選出について
- (6) 2024年度中央委員の変更について
- (7) 第27回参議院議員選挙における候補者推薦について
- (8) 印刷労連規約一部改訂について
- (9) 構成組織の脱退について
- (10) 構成組織からの会費減免申請について
- (11) 第31回年次大会の開催について

第1回中央委員会が開催され、中央委員より活発な意見のもと、全ての議案が確認されました。



議長
田中中央委員
〈トッパン・フォームズ フレンドシップユニオン〉



司会・開会挨拶
古賀副中央書記長

〈中央委員からの質疑〉



佐藤中央執行委員長
挨拶



2024年予算(案)提案
鈴木財政部長



2024春闘まとめ(案)提案他
大塚中央書記長



重松中央委員
〈図書印刷労組〉



上野中央委員
〈凸版印刷労組〉

連合 芳野会長との総対話集会開催!!

- ・日 時:2024年7月26日(金) 16:00~17:00
- ・場 所:TKPガーデンシティPREMIUM品川高輪口
- ・参加者:<印刷労連> 51名
〈連合本部〉芳野会長、小原総合政策推進局長、
久保総務・人財局長、境財政局部員
- ・テーマ
印刷労連産業政策に関する対話
ジェンダー平等参画の取り組みに関する対話

印刷労連の産業政策およびジェンダー平等推進計画の内容について、活発な意見交換の場となりました!!



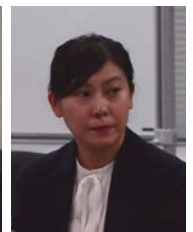
芳野会長



小原総合政策
推進局長



久保総務・
人財局長



境財政局部員



佐々木中央執行委員
〈凸版印刷労組〉



山口中央委員
〈ダイオーミウラ労組〉



古川中央執行委員
〈ココヨ労組〉



杉山副中央執行委員長
〈ココヨ労組〉

対話集会で多くの方よりご質問、ご意見を頂きました

1.印刷労連産業政策について<一部掲載>

<印刷労連>

障がいの有無や性別・国籍などに関わらず、生き活きと働くことができるインクルーシブデザインの支援を推薦議員へ要望している。連合本部からも働く空間の整備について支援をお願いしたい。

<連合本部>

特に中小規模事業所では資金面から設備や機材のバリアフリー化が困難な場合が多い。今後国会で「下請け法」が改正され、適切な価格転嫁で状況が改善する可能性がある。今後の春闘要求への追加も前向きに検討したい。

10/25 連合 ジェンダー平等推進中央集会

プログラム

メインテーマ:男女平等参画・ジェンダー平等で持続可能な社会へ!

日時:10月25日(金) 13:00~17:30

会場:よみうりホール/Web 併用

○開会 司会 山下 茂美 連合中央執行委員

○主催者代表挨拶 芳野 友子 連合会長

○基調提起「男女平等参画・ジェンダー平等で持続可能な社会へ!」

小原 成朗 連合総合政策推進局長

○基調講演「ジェンダー平等で持続可能な社会を」

瀬地山 角 東京大学 大学院総合文化研究科教授

○パネルディスカッション

パネリスト

瀬地山 角 東京大学 大学院総合文化研究科教授

中村 天江 連合総合生活開発研究所 主幹研究員

芳野 友子 連合会長

コーディネーター

井上 久美枝 連合副事務局長

○集会アピール採択 福山 香織 連合兵庫女性委員会委員長

○閉会挨拶 山中 しのぶ 連合副会長

○閉会



連合 芳野友子会長ご挨拶



基調講演 瀬地山角教授



パネルディスカッションの様子



ジェンダー平等推進委員会メンバー (左)会場内にて (右)芳野会長のパネルとともに

印刷労連は、運動方針の大きな柱の一つとして、「男女平等参画・ジェンダー平等推進」を掲げています。連合では、「ジェンダー平等推進計画」フェーズ1⇒フェーズ2へと移行しますが、印刷労連においても運動方針を基本とし、連合の計画と連動した形で運動を進めて参ります。

今回の瀬地山教授の基調講演で印象に残ったフレーズ

・男女比の歪みは結論を歪める

・社会の持続性の問題を考える

・多様性は生産性を高める

男女で一緒に新しい社会を構築しよう!!

印刷労連ではジェンダー平等推進委員会を中心に、皆さんと一緒に考え、真のジェンダー平等の実現に向けて一歩ずつ前に進みます!!



10/21 中央執行委員研修開催!

日時 2024年10月21日(月) 15:30~17:00
 会場 友愛会館9階 大ホール
 講師 富士社会教育センター 武田 仁 様

2024年10月21日(月) 拡大中央執行委員会終了後に「政治と選挙」に関する研修会を開催しました。労働組合が政治に関わる理由から、公職選挙法やなぜ選挙へ行かないのか、投票をしてもらうにはどうすればよいか、などについて受講しました。

◆研修テーマ 政治と選挙について<要旨>

- ・なぜ労働組合が政治に関わる必要があるのか
- ・公職選挙法について
- ・政治資金規正法について
- ・政党の系譜
- ・労働運動の系譜
- ・選挙へ行かない組合員

<出席者の印象ワード>

- ・(政治は)無関心でも無関係では
いられない。
- ・法律は常識を覆す。働き方の転換点
となる。
- ・日ごろからの組合活動が投票への
呼びかけにも影響する。



ろうきんアプリで **ろろうきん**

住所変更 募金プロジェクト

あなたの住所変更が子どもたちの支援に!

詳細はこちらから



「もしも」に備え
 「もしも」を防ぎ
 「もしも」に向き合う。

「みんなですすげあい、豊かで安心できる社会」の実現に向け、
 皆さまとともに取り組んでいます。

「こくみん共済 coop」は福利を目的とし、互恵の仕組みとして共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしを実現することを目的としています。この趣旨に即した資金を払い込んで居住地または勤務地の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

こくみん共済 (全労済) coop

<編集後記>

11月7日(木)新聞朝刊各紙は「米大統領 トランプ氏」が大きな見出しを飾っていました。紙面も大変多くの関連記事が掲載され、日本における米大統領への興味、その影響が大きいことが改めて実感された次第です。今回の選挙では、インフレによる生活費の高騰に関することが、有権者の不満の受け皿としてもなっているとありました。私たちの大きなニュースとしては、この号の発行時には来春へ向けた要求の検討がされている時期になるかと思えます。日本でも物価上昇は継続しており、実質賃金も上昇基調に転じたとは言えない状況です。生活向上へと結びつけるためにも皆さんの声を、力を合わせて乗り越えましょう!(井筒)